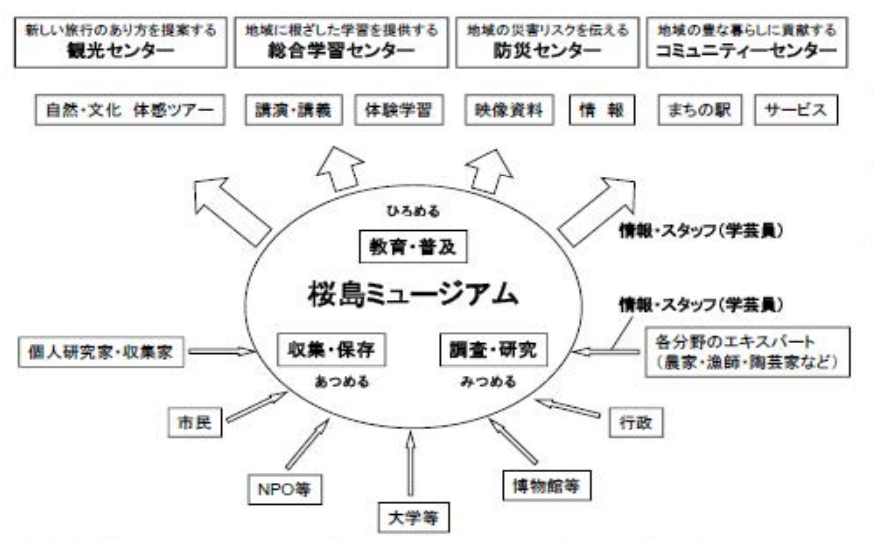


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	(地域レベルでの取組基盤の整備)協働と持続性確保のための枠組み・体制の整備
手法名	桜島ミュージアム構想 エコツーリズム(観光)とエコミュージアム(教育)の一体的仕組み
主体	NPO法人桜島ミュージアム
背景 (地域の課題)	桜島という他にはない自然資源を利用し地域活性化に役立てるため、エコツーリズム事業等はどうのように展開すべきか。魅力を十分に活かすインタープリテーションの方法と、地域貢献の方法はどうあるべきか。
手法/方策の詳細	<p>NPO法人桜島ミュージアムでは、桜島という地域独自の自然資源を活かし、観光の側面が強いエコツーリズムと、教育の側面が強いエコミュージアム手法を合わせた形でのエコツアーを実施している。</p> <p>エコツーリズムは 所でしか味わえない本物を体験するツアー。エコミュージアムは、地域全体をまるごと博物館と考え、現地で本物を保存・展示し、実際に体験できるシステムで、地域社会の発展にきよするもの。桜島ミュージアムでは、この両者を兼ね備えたものとして「エコツアー」を展開している。</p> <p>NPO法人桜島ミュージアムでは、情報を収集し調査研究を積んだ上で、本物を現地で保存・展示し解説するツアープログラムを提供。これを観光・教育・地域振興・防災などに活かし、桜島をアピールしている。新しいものをつくるのではなく、今あるものを大切に、うまく活用することで桜島の特色と価値を顕在化し、広く伝えていくことを目指している。</p> <p>具体的な手法としては、「本物」のある現地でその解説を行う体験型ツアーを重視している。「講演会」は関心の高い層に対しては教育効果は高いが、普及効果は低い。体験型ツアーでは、「ここにしかない」「普段行けないところに行く」という宣伝で関心がとても高まり、さらに、火口や砂防施設等に足を運び、本物のインパクトを受けた上で現地で解説を聞く体験型ツアーでは、教育効果も普及効果も高い。</p> <p>「ここにしかない本物」を体感してもらった上でその意味を解説し伝えることが重要である。インタープリターは、目の前に見ている物に内在された、見えない「意味」を、実物を目の前にして伝えることが重要。そのためには学術的な調査研究や、伝統的な知識・経験が不可欠であり、地域住民、行政、博物館、大学、他のNPO等が連携することが必要である。</p>
手法・技術的視点	エコツアーのプログラムでは、参加者個々人が本物を体感する機会を与え、その背景や意味の解説を行うことで、感動と理解を深めることができ、普及と価値の創出につながる。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 60%;">  <p style="text-align: center;">桜島ミュージアム</p> <p>「住んでいる人」と「訪れる人」が楽しみながら学び、豊かな生活を送る「きっかけ」を提供する。新し物をつくるのではなく、今あるもの大切に、うまく活用することで桜島の特色を出す。</p> </div> <div style="width: 35%;"> <p style="text-align: center;">桜島ミュージアム構想</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 本物(遺産)を現地で保存・展示・解説するシステムをつくる。 ■ これを、観光・教育・地域振興・防災などにうまく生かし、桜島の特色をアピールする。 ■ 桜島に関する情報を集めて、価値を見出し、広く伝える。 </div> </div>
参考資料	里なび研修会in鹿児島 福島大輔 NPO法人桜島ミュージアム理事長